

新方式のユニット金型がヒット——新興セルビック 特許武器に、下請けから脱却

金型会社というと大企業の下請け的なイメージが根強いが、現場の経験を武器に新製品を開発、大企業に逆に売り込みを図っている元気な会社がある。

新興セルビックは1987年6月、金型メーカー、新興金型製作所の開発、販売部門として設立された。竹内社長は、両社の社長を兼ねるが、金型機械は大企業の技術者が頭で考えたものが多く、必ずしも現場のニーズに応えたものばかりではない。そこで、新会社を作つて、開発部門に力を入れようと考えた。

これまでに、4件の新製品を作りだしたが、87年11月に発表した新方式のユニット金型「コマンドシステム」が最大のヒット商品になった。

金型は、コアと呼ばれる凸部分とキャビティーと呼ばれる凹部分から作られている。通常は、この凹部分に穴を開けて、プラスチック樹脂を注入し成型する。ところが、この方法だと、一組の凸凹からは、一種類の成型しかできない。

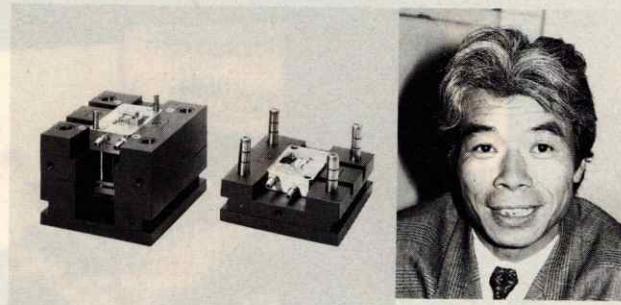
そこで、コアとキャビティーの間に入れ子という成型用の型をはめこんだ。この方法だと、違う製品を作る場合でも入れ子を交換するだけですむ。モデルチェンジの期間が短い市場にも対応できるほか、コストも25~35%押さえられるという。

コマンドシステムは、現場のニーズをとらえた商品として1台55万円の価格にもかかわらず、大手メーカーからの注文も相次ぎ、既に150台が売れた。同社では、日本のはか、13カ国に特許を申

●新興セルビックの概要

住所	東京都品川区旗の台3-14-5
電話	03-785-7800
社長	竹内 宏氏
資本金	500万円
売上高	7500万円 (63年8月期)
従業員	15人 (新興金型製作所も含む)
主要業務	金型関連商品の開発、販売など

●コマンドシステムと竹内宏社長(右)



請。昨年6月には、米国の特許を取った。この商品に興味をもった大手重機メーカーから、1億円を超える金額で、特許権を譲って欲しいという話があったが、断ったというエピソードもある。

新興セルビックでは、コマンドシステムを筆頭に申請中のものを含め、国内で66、海外で22の特許をもっている。「今まで、職人芸として社外秘扱いしていた」製品についても、積極的に特許、意匠登録、実用新案の申請を行い、いずれはこうした特許の販売も計画している。

30年の職人経験が新製品生みだす

竹内社長は、「資金の乏しい中小企業は、市場の変化に対応して新製品を出していくのは難しいが、現場の経験をいかした製品ならば開発できる」「その意味では金型職人としての30年間の経験が、新製品のアイデアの源になっています」と語る。

昨年6月には、成型したプラスチック製品を金型に組み込むだけで、余分な樹脂を自動的に除去する部品「ゲートカットユニット」を開発した。商品化したところ、市場の反応も良く、第2のヒット商品になるのではと期待されている。

特許の販売という従来の金型メーカーになかった発想が、ビジネスとして軌道にのるかどうか。今後、数年間の竹内氏のかじ取りが注目される。

(斎藤 正一)